



ほんものを たべよう

提出日	10/火	水	木	金
	15	16	17	18
配達日	10/火	水	木	金
	22	23	24	25
翌々週分配達日	10/火	水	木	金
	29	30	31	1

2024. 10月4週号

Alter Weekly Order Catalogue

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

生活用品

どこでも役立つ和布(なごみぬの)

ファッション、スポーツ、睡眠時、日除け、冷え防止、電磁波対策などに

(株)ナファ生活研究所

文責 北浦 善久(ナチュラルマルシェ代表)

医療ガーゼ国内自給率ほぼ0

日本国内で使われている医療ガーゼは現在ほぼ100%海外で織られています。そして、その原料も除草剤・殺虫剤を使い効率的に育てられた環境や健康負荷のある安価な綿(作物別で農薬の使用量が一番多いのが綿)やプラスチック由来のものが現状です。

2010年TAKEFU繊維の開発者・相田(そうだ)雅彦氏はその現状を目の当たりにし、日本人を守る医療ガーゼの国産織りを復活させるためにTAKEFU繊維での製造準備を始めました。奇しくも翌年は東日本大震災。2011年1月より本格生産を始めた竹ガーゼ。2ヵ月間で織りためた全量を石巻へ送り、傷ついた人々が運び込まれた体育館の中で、特に床ずれに苦しむ人々の治療に使われました。その竹ガーゼはメーカーから無償で届けられて大いに役立てられたそうです。その後2019年1月19日に厚生労働省所轄の独立行政法人・医療品医療機器総合機構(PMDA)にて国内医療ガーゼとして認定されるに至りました。

抗菌性に優れた繊維

TAKEFU繊維は、世界に1500種類以上あると言われる竹の中で「慈竹(じちく)」という中国に自生し古来より漢方薬として解毒を目的に使われている竹を使用しています。それを皮ごとチップにして煮だし、セルロースを抽出し繊維化したものがTAKEFU繊維です。2001年に風呂場に掛けてあったTAKEFUのボディタオルがカビないことに気づき、公的機関で検査したところ、代表的な院内感染菌MRSAが18時間後に検出されずとの驚きの結果になりました。その報告を受けた日の深夜、相田氏の頭に降りてきた言葉が『人の最も痛み苦しむその時に、そっと寄り添い、ただ快癒を祈る1枚のガーゼ』でした。その後、正式に竹の抗菌性を有する繊維として特許を取得しました。その他、制電性・調湿性を備えた竹本来の性質が生きている繊維です。

日々TAKEFUをお届けしている中で、特に喜ばれるのが療養中や皮膚疾患のある方です。私自身も家族が入院した時にいつも言われるのが「こういう時にTAKEFUの良さが分かる」という言葉です。



私自身も幾度となく心の拠り所になってきました。

和布(なごみぬの)の誕生

TAKEFUの始まりは身体を洗うボディタオルからでした。そのあとアトピーの方からもっと肌摩擦のないものをとの声から「ボディタオルのベビーソフト」が生まれ、その布に癒しを深めるために色付けしたのが2007年に生まれた和布(なごみぬの)で、TAKEFUの原点というべきアイテムです。当初は慈竹が自生する中国で製品化していましたが、国産竹ガーゼ工場始動をきっかけに、その工場を支える為にと生まれ変わったのが今回ご紹介の国産竹ガーゼ和布です。繊細な医療ガーゼをつくる工場だからこそできる繊細なきめ細やかさで、糊抜き晒しも丁寧に、天日干しでゆっくり乾燥させて仕上げています。鮮やかな色合いは植物をこよなく愛する相田氏が、草木自然からインスピレーションを得てつくられています。染色は環境や健康負荷のない染料を選んでいきます。

身の回りを整える万能布

ファッションからスポーツ、睡眠時まであらゆるシーンに役立つ万能布です。外出時はストールに日除けや冷え防止に、ガーゼ素材でかさばらず他の色と2色巻きにするとさらに雰囲気が出ます。頭に巻いてバンダナ代わりにもなります。私はファッションとしてだけでなく、天然の抗菌性・調湿性・吸水性を活かし、登山時の日除けや汗拭きとして。睡眠時の冷え防止にも欠かせません。また、制電性もいので電磁波対策として、パソコンや携帯の使い過ぎた時に目や頭に掛けて放電させています。冬は温かく夏



ナファ生活研究所の相田 雅彦社長とナチュラルマルシェの北浦 善久代表

は涼しく一年を通してお使い頂けます。

一番身近な環境

衣食住といわれるように衣はいのちと関わる大切なもので、自分と他者(社会)との境界をつくる一番身近な環境です。その中でも竹は、天地にスッと伸び、他の植物より水を沢山含む性質は人間に近い植物と言われ皮膚との親和性の高さから、身を守ってくれる衣の本質に気づかせてくれるような存在です。傷口に竹ガーゼを当てるとスツと痛みが楽になるのもこのためです。近年の環境負荷の大きい現代により必要性が増していると感じています。

気づきを与えてくれる

相田氏はある日、繁殖する竹林に「どうしてそこまではびこるの?」と竹に問うと、『そこまでしないと人間は気づいてくれない』『人間が解決できない問題をひとつかふたつは解決してあげましょう』そう声が聞こえてきたそうです。それがきっかけで相田氏は竹との関係を深めていきました。

私は地域のお店の4代目として、創業は薬屋から戦後は衣料品店として営み、創業100周年を前に相田氏と出会いました。初対面でハグし合うほど運命的な出会い。その後、取引先を超えて社員研修へ同行したり、スタッフと伊勢神宮の禊をしたりしながら交流を深めていきました。当時は会社の変革期で大変な時期でしたが、TAKEFUに日々触れることで自分の役割に気づいていき、今の会社形態へと変化することができました。そんな相田さんは私にとって仕事の先輩であり、父であり、生き方を見せてくれる人生の師匠でもあります。そしてこのご縁を大切にしながらお会いできたのがオルターの西川代表です。お二人ともされていることは違っても自分の道(使命)を全うしている同志。その感覚に妥協せず嘘偽りなく生み出されるのがTAKEFU製品です。その響きに触れることで、関わる皆さまがより良い自分の人生を送られるきっかけになればと思いお伝えしています。